

石崎光瑤

生誕
140年記念
ISHIZAKI KOYO
The Elegant World of Flower and Bird Paintings

2024年9月14日(土)～11月10日(日)

「主催」京都府 京都文化博物館 毎日新聞社、京都新聞
「後援」公益社団法人京都府観光連盟
公益社団法人京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都

若冲を超えろ！
絢爛の花鳥画

前期：9/14～10/14 後期：10/16～11/10

THE MUSEUM OF KYOTO 京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888 www.bunpaku.or.jp

作品リスト

No.	作品名	制作年	所蔵
第1章 画学修業と登山			
1	虫類写生	明治29～36年(1896～1903)	京都市立芸術大学芸術資料館 前後期で巻替え
2	麦穂	明治32～35年(1899～1902)頃	南砺市立福光美術館
3	富山湾真景図	明治31年(1898)頃	南砺市立福光美術館
4	笠置応召図	明治35年(1902)	南砺市立福光美術館
5	立山登山 高山植物	明治39年(1906)	南砺市立福光美術館
6	立山写生 巻一	明治40年(1907)	富山県美術館
7	立山写生 巻二	明治41年(1908)	高岡市美術館
8	高嶺百花譜	明治41年(1908)	南砺市立福光美術館 前後期で巻替え
9	白山の霊華	明治43年(1910)頃	南砺市立福光美術館
10	信州槍岳之図	大正元年(1912)頃	南砺市立福光美術館
11	笥	大正3年(1914)	南砺市立福光美術館
12	森の藤	大正4年(1915)	南砺市立福光美術館
13	麗日孔雀之図	大正5年(1916)	富山市郷土博物館 後期
第2章 インドへの旅、新しい日本画へ			
14	大極楽鳥 紅極楽鳥生態写生	大正5年(1916)	南砺市立福光美術館
15	カシミヤ州の雀	大正6年(1917)	南砺市立福光美術館
16	インコ(ラブバード)	大正6年(1917)頃	南砺市立福光美術館
17	第一次印度旅行 六 カシミール洲 水郷	大正6年(1917)	南砺市立福光美術館 前後期で巻替え
18	第一次印度旅行 八 石楠花 シシヤナード谿谷	大正6年(1917)	南砺市立福光美術館 前後期で巻替え
19	ヒマラヤスケッチ帖	大正6年(1917)	高岡市美術館 前後期で頁替え
20	雪山夜色之図	大正7年(1918)	南砺市立福光美術館
21	熱国妍春	大正7年(1918)	京都国立近代美術館 前期
22	燦雨	大正8年(1919)	南砺市立福光美術館
23	インコ	大正8年(1919)頃	南砺市立福光美術館
24	急雨孔雀	大正8年(1919)	高岡市美術館 後期
25	緑蔭	大正9年(1920)	南砺市立福光美術館
26	写生帖《外遊写生 船、花》	大正12年(1923)	京都市立芸術大学芸術資料館
27	雪	大正9年(1920)	南砺市立福光美術館
28	白孔雀	大正11年(1922)	大阪中之島美術館 10/1～11/10

No.	作品名	制作年	所蔵
第3章 深まる絵画表現			
29	写生帖《外遊写生 風景、ダイコン》	大正12年(1923)	京都市立芸術大学芸術資料館 前後期で頁替え
30	写生帖《外遊写生 ルーブル》	大正12年(1923)	京都市立芸術大学芸術資料館 前後期で頁替え
31	写生帖《外遊紀行文 欧州》	大正12年(1923)	京都市立芸術大学芸術資料館
32	写生帖《渡欧写生》	大正12年(1923)	南砺市立福光美術館 前後期で頁替え
33	麗日風鳥	大正13年(1924)	南砺市立福光美術館
34	秋光	大正14年(1925)頃	南砺市立福光美術館 9/14~9/29
35	鶏之図(若冲の模写)	大正15年(1926)	富山市郷土博物館 右幅…後期 左幅…前期
36	春律	昭和3年(1928)	京都市美術館
37	瑞兆	昭和3年(1928)	南砺市立福光美術館
38	寂光	昭和4年(1929)	南砺市立福光美術館
39	藤花孔雀之図	昭和4年(1929)	南砺市立福光美術館
40	豊穰	昭和5年(1930)	南砺市立福光美術館
41	笹百合	昭和5年(1930)	南砺市立福光美術館
42	藤花文禽	昭和5年(1930)	南砺市立福光美術館
43	紅楓	昭和6年(1931)	南砺市立福光美術館
44	惜春	昭和6年(1931)	南砺市立福光美術館
45	写生帖《印度再遊 九曼草 無愛樹 雪山》	昭和8年(1933)	高岡市美術館 前後期で頁替え
46	写生帖《印度再遊 十一 雪山》	昭和8年(1933)	高岡市美術館 前後期で頁替え
47	《雪山花信》下絵 綬鶏	昭和8年(1933)頃	南砺市立福光美術館
48	奥殿襖絵《虹雉》	昭和9年(1934)	金剛峯寺
49	奥殿襖絵《雪嶺》	昭和10年(1935)	金剛峯寺
50	ヤマドリ雄《春律》下絵	昭和3年(1928)頃	南砺市立福光美術館
51	ヤマドリ雌《春律》下絵	昭和3年(1928)頃	南砺市立福光美術館
52	カラス《惜春》下絵	昭和6年(1931)頃	南砺市立福光美術館
53	カラス(羽部分)《惜春》下絵	昭和6年(1931)頃	南砺市立福光美術館
第4章 静謐なる境地へ			
54	花鳥之図	昭和10年(1935)	富山県水墨美術館 後期
55	罌粟	昭和11年(1936)	南砺市立福光美術館寄託
56	奔湍	昭和11年(1936)	南砺市立福光美術館
57	霜月	昭和13年(1938)	東京藝術大学 後期
58	霜月	昭和17年(1942)	南砺市立福光美術館 前期
59	黄菊白菊	昭和14年(1939)	永青文庫 前期
60	遅日	昭和14年(1939)	南砺市立福光美術館
61	晨朝	昭和14年(1939)	富山県美術館
62	隆冬	昭和15年(1940)	南砺市立福光美術館
63	襲	昭和17年(1942)	南砺市立福光美術館

No.	作品名	制作年	所蔵
64	清夏	昭和18年(1943)頃	南砺市立福光美術館
65	後圃	昭和18年(1943)	南砺市立福光美術館
66	聚芳	昭和19年(1944)	南砺市立福光美術館
67	遊兔	昭和21年(1946)	南砺市立福光美術館
68	鶏頭習作	制作年不詳	富山県美術館
69	コサギ《襲》下絵	昭和17年(1942)頃	南砺市立福光美術館
70	アオバト	昭和18年(1943)頃	南砺市立福光美術館
71	ハナシヨウブ	制作年不詳	南砺市立福光美術館
72	スイフヨウ	昭和20年(1945)	南砺市立福光美術館
73	アワの穂	昭和21年(1946)	南砺市立福光美術館
74	小下絵画卷(大正時代)	大正5～11年(1916～22)頃	南砺市立福光美術館
75	小下絵画卷(昭和時代)	昭和2～17年(1927～42)頃	南砺市立福光美術館
76	写生帖《博物館 平家納経》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
77	写生帖《禅林寺 智恩院》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
78	写生帖《若冲 赤坂ノ松 雉 中国画》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
79	写生帖《サセックス》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
80	写生帖《虫 黒部 ナナカマド》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
81	写生帖《青鸞》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
82	写生帖《白孔雀》	大正～昭和時代前期	京都市立芸術大学芸術資料館
	資料1 雅号証	明治30年(1897)	南砺市立福光美術館
	資料2 石崎光瑠宛 内島暁園葉書	大正3年(1914)	南砺市立福光美術館
	資料3 石崎光瑠使用 登山用帽子(ビスヘルメット)		南砺市立福光美術館
	資料4 石崎光瑠画伯画会人名簿	大正4年(1915)	南砺市立福光美術館
	資料5 光瑠渡印百画会 金銭出納簿	大正4年(1915)	南砺市立福光美術館
	資料6 インドからの光瑠絵葉書アルバム	大正5～6年(1916～17)	南砺市立福光美術館
	資料7 『印度窟院精華 附記行』	大正8年(1919)	南砺市立福光美術館
	資料8 石崎光瑠宛 土田麦僊葉書	大正9年(1920)	南砺市立福光美術館
	資料9 石崎光瑠宛 吹田草牧葉書	大正11年(1922)	南砺市立福光美術館
	資料10 『若冲画譜』(石崎光瑠旧蔵)	明治32年(1899)	南砺市立福光美術館
	資料11 石崎光瑠自用印		南砺市立福光美術館
	資料12 石崎光瑠自用印 印譜		南砺市立福光美術館
	資料13 石崎光瑠自用印 印箋 桑名鐵城作		南砺市立福光美術館
	資料14 『林蘭居画冊』	昭和16年(1941)	南砺市立福光美術館

●会場構成の都合上、展示の順番は作品番号と必ずしも一致しません。
●作品保護のため、温度、湿度、照明を調整しております。御来館の方にとって理想的と感じられない場合もあるかと存じますが、ご容赦願います。

石崎光瑠物語

歴代日本画家の紹介漫画でもおなじみ、
日本画家・河野沙也子さんが、
本展に石崎光瑠の紹介漫画を
描き下ろしてくれました。

「河野さんコメント」

漫画を描くために様々な文章や写真資料を拝見しましたが、登山前に撮られたと思われる写真の中で、好奇心を抑えられない少年のような表情をされているのが特に印象的でした。人に優しく飾らない性格だったという光瑠さん。そんなお人柄が少しでも伝われば幸いです。

石崎光瑠

1884/04/11
-1947/03/25



本名 猪四一
出身地 富山県砺波郡福光町
(現南砺市)
実家 豪商
(父は実業家で文人)
家族構成 五男
師匠 山本光一、竹内栖鳳
好きな食べ物 干し柿



22歳の頃から本格的な登山を始めた光瑠。草花や山容を写生したり、写真を撮ったりしたという。



30歳の時、第8回文展で『鷲』を出品し褒状を受賞。この作品に鎖木清方も惹かれたと書いている。



32歳でインドへ向かい、帰国後の『熱国妍春』燦雨は文展・帝展で連続特選となる。花鳥が織りなす絢爛豪華な世界は光瑠の代名詞にもなった。



昭和に入り、上品で重厚な大作『寂光』が生まれる。光瑠は夢の様な美しい世界を追い求めたのだった。

栖鳳門で出会った土田麦傳とは苦学生として境遇を分かち合い、二人でお金を出し合って写生用の鳥を借りたこともあったようだ。

石崎君
もう返しに行かんと！

あと少しだけ



麦傳らは絵専へ入学したが、家庭の事情から光瑠は進学せず山の世界へ入っていく。

1909年には民間パーティとしては初の剽岳登頂に成功し、後にはヒマラヤにも登るなどしている。



ヨーロッパ滞在中にはいがみ合う友人たちの仲を取り持ったり、人情に篤い姿も書き残されている。



黒田重太郎
「ガチバチ」
麦傳

光瑠といえど伊藤若冲とも関係が深い。ある時学生からこんな情報を受け：

西福寺にある模絵が若冲のものかもしれません



後日模絵を見に行き、感銘を受けた光瑠は模絵の模写作品を制作した。



光瑠の若冲研究は若冲作品の再評価へつながり、光瑠自身の作品世界を広げる手がかりにもなった。

担当学芸員



栖鳳は弟子入りした光瑠に、自分の真似をするのではなく、光瑠が学んできた琳派という特色を伸ばすような指導をしました。さすが栖鳳です！

「生涯140年記念「石崎光瑠」展関連マンガ」
2024年
制作：河野沙也子 KAWANO SAIKO
X(twitter)：@sanaoas5 ※無断転載の複製、転用を禁じます。 Reproduction is prohibited.

参考文献：石崎光瑠「西福寺の若冲模絵」新巻の「画展を観て」『中央美術』12巻5号、1922年5月／石崎光瑠「土田麦傳君の苦学時代」『探影』12巻7号、1936年7月／黒田重太郎「光瑠と私」『美術』13巻7号、1937年7月